

名古屋高校 2年生 進路通信

～センター試験の基礎知識～

大学入試センター試験が1月16日(土)・17日(日)に行われました。センター試験が終わると、3年生の先輩たちは、どの大学に願書を出すかを決定するため最後の三者面談を行います。4月からはみなさんが受験生になります。3年生の後ろ姿を見ながら、今からセンター試験についての基本事項を押さえておきましょう。

1. センター試験とは

センター試験は、毎年1月の中旬に2日間にわたって行われます。マークセンス方式で、基礎的な学力が問われるテストです。各大学は合否判定に利用する教科・科目と配点を事前告知するので、受験生は志望校に必要な科目を受験します。センター試験後には自己採点を行い、その結果から個別学力検査の出願先を決定します。

2. 受験者数について

2016年実施のセンター試験には、約56万人が出願しています。全国の高校生がライバルになる、とても大規模な試験です。

3. 日程と時間割について

2016年実施のセンター試験は1月16日(土)・17日(日)で、右のような日程・時間割となります。出題教科・科目は5教科*30科目で、実際に受験できるのは、数学2科目と地理歴史・公民2科目、理科2科目を含む、最大5教科8科目です。志望校の入試に合わせて受験します。現在、ほとんどの国立大で5教科7科目が課されており、教科のバランスが重視されています。また、外国語で英語を選択した場合、筆記試験に加えてリスニングテストが必須となっています。

*地理歴史・公民を合わせて1教科と数えています。

4. 出題形式・時間・配点について

センター試験はすべてマークセンス方式です。高校3年間の学習事項が出題の対象となり、すべて教科書の内容から出題されます。各教科の試験時間・配点は右の通り

【試験教科・時間】

第1日	地理歴史 公民	2科目選択 9:30~11:40 ※1 1科目選択 10:40~11:40
	国語	13:00~14:20
	外国語	【筆記】 15:10~16:30 【リスニング】 英語のみ 17:10~18:10 ※2
第2日	理科①	9:30~10:30 ※3
	数学①	11:20~12:20
	数学②	13:40~14:40
	理科②	2科目選択 15:30~17:40 ※1 1科目選択 16:40~17:40

【1科目あたりの試験時間・配点】

教科	試験時間	配点
国語	80分	200点
地理歴史	60分	100点
公民	60分	100点
数学	60分	100点
理科① (2科目選択)	60分*3	100点
理科②	60分	100点
外国語	【筆記】80分	200点
	【リスニング】 英語のみ (解答時間)30分*2	50点

※1 地理歴史及び公民並びに理科のグループ②の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とする。
※2 リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とする。
※3 理科のグループ①については、1科目のみの受験は認めない。

<「平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項」より>

入試に関するQ&A

みなさんもいよいよ受験生になりますが、入試には耳慣れない用語や疑問も多いものです。

入試に関する疑問をQ&A形式で紹介しますので、確認しておきましょう。

Q. 1

もし事故や病気などでセンター試験が受験できなくなったら？

A. 1

事故や病気などのアクシデントが起きた場合は、受験生本人または代理人が、速やかに「受験票」に記載されている「問い合わせ大学」に行き、申請すれば追試験を受けることができる。申請の受付時間、詳しい方法等については、受験票・写真票等と一緒に送付されている「受験上の注意」に明記されている。なお、2016年度大学入試センター試験の追試験は1月23日(土)・24日(日)に実施。

Q. 2

センター試験の得点調整とは？

A. 2

センター試験終了後、大学入試センターでは、各教科で選択科目ごとに平均点を算出する。その平均点に原則として20点以上の差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められた場合には、平均点が低い科目を受験した受験生が不利にならないよう、得点差を調整する。

Q. 3

国公立大の出願はいつ行うのか？

A. 3

国公立大の出願は1月25日(月)～2月3日(水)の間に行う(国際教養大を除く)。出願する可能性のある大学の願書は、当然それまでに取り寄せておかねばならないので、早めの準備が必要だ。また、出願校決定には、自己採点結果が唯一の手がかりとなる。確実な出願校決定のためには正確に自己採点することが重要だ。

Q. 4

「志願倍率」、「実質倍率」の違いとは？

A. 4

ひと口に倍率といっても「志願倍率」と「実質倍率」の2種類がある。「志願倍率」とは、「志願者数÷募集人員」のことで、志願者とは実際に大学に出願した人のことだ。「志願倍率」では、その大学の人気度がわかる。一方「実質倍率」は、「受験者数÷合格者数」のことで、実際の試験での競争率がわかる数字だ。

出願はしたものの、試験当日までに第1志望校の合格が決まった受験生などは受験しない場合があり、「志願者数と受験者数が違う」といったことが起こる。また、入学辞退者を見込む大学は、募集人員よりも多めに合格者を発表するため「募集人員と合格者数が違う」ということも起こる。このように「志願倍率」と「実質倍率」では数値も意味も異なるので、単に「倍率」といった場合には、どちらの倍率を意味するのか注意が必要だ。

Q. 5

大学は何校まで出願できるか？

A. 5

国公立大一般入試(国際教養大など一部の大学を除く)の場合は、前期・中期・後期の各日程から1つずつ、最大3つの大学・学部への出願が可能だ。また、私立大などは、試験日程が重ならなければ出願に制限はない。第1志望校を中心に、うまくスケジュールを立てて出願校を考えよう。

Q. 6

「二段階選抜」とは？

A. 6

一部の国公立大で行われる選抜方法のこと。個別学力検査の前にセンター試験の成績などにより第一段階選抜が行われ、合格者のみが個別学力検査を受験することができる。志望校が二段階選抜を行うかどうか確認しておこう。